

山

蠶

養

法

全

山蠶養法

緒言

予已ニ山蠶ノ遺利許多ニシテ一日モ  
後ル可カラサルヲ知リ。盛ンニ開業ス  
ラソトヲ希ヒ焦心苦慮シテ以テ之ヲ  
試養シ。且上武信美ノ間ニ歷遊諸家養  
法ノ得失ヲ實驗粗ク了解スル所ノ説ヲ  
以テ縣廳ニ建言シ同志ト俱ニ山蠶會

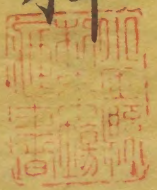
紀元二千五百三十三年十二月

備中佐伯義門編輯

山  
蟻  
養  
法

小田縣  
岡笠

製絲場藏梓



謹テ諾シ退テ考ルニ。毎戸ニ之ヲ諭シ  
每人ニ之ヲ説ク是レ日モ足ラス。一書  
ヲ綴リ以テ唇舌ノ勞ヲ省クニ如カス。  
乃チ譎劣ヲ省ニス諸家ノ養法及ヒ予  
ノ經驗悟入スル所ノモトヲ斟酌シ。  
圖画ヲ加ヘ以テ筆ノ足ラザルヲ補ヒ  
同好ノ士ニ示ス。看者其文辭ノ卑陋ヲ  
以テ之ヲ退クル無ク一流讀ヲ給ハラ

社基立、許可ヲ乞フ。一日權參事森長  
義君予ヲ召シ曰ク。善哉汝ノ志當縣下  
北郡僻邑、諸村活計ノ資本ニ充ルモ  
乏カラサルナクシテ。獨リ植樹ニ富  
ルモノ天將サニ此賜ヲ以テ彼民ニ授  
ケ。專ラ山蠶ノ利益ヲ収メシメントス  
ルナリ。汝其實験スル所ノ養法ヲ授ケ  
彼民ヲ以テ速ニ此業ニ就カシメヨ。予

山蠶養法目錄

卷之上

飼場辨

鑑種法

貯種法

播種法

飼養法

防害法

ハ幸甚ナリ。

紀元二千五百三十三年五月

佐伯義門謹識

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '予' and '之'）

収獲地坪表

卵種収獲表

山蠶飼方之圖

山蠶養法目錄 終



叔繭法

鑑繭法

蠶蛾辨

蜂蛆辨

製種法

卷之下

製絲法

製綿法

內飼法

山蠶養法卷之上

濱野章吉閱正

佐伯義門編

高草農夫一校

飼場辨

飼場カヒバノ風土ハ西北ヲ塞フサキ陰風ヲ障サヘ。東南開豁カイカツ

ニシテ陽氣ヲ受ケ成丈ケ平坦ヘイタンノ地ヲ撰ヒ種付

前ニ兩三度ホド下刈ヲナシ。空氣循環ノヨキヨ

ク意ヲ用チユ可シ。養樹長大ナルハ種付ケ并ニ

叔繭等ノ節都テ不辨利ナルユヘ。大凡高サ五六

江表書卷之六  
江表書卷之六

ト雖橙櫛ヲ以テ最上トス。繭絲ノ大小美惡収納ノ歩合等專ラ其食葉ノ種類ニ係ルカ宜ク爰ニ注意ス可キナリ。

### 鑑種法

卵種ハ細心ニ鑑定セサル可カラス。其法殆ント

曰イヒ難ガタシト雖氏令其一班ヲ舉クレハ先ツ卵子ノ

何トナク潤澤ノ氣アリ鼠色ニシテスミシクアキ微赤ビセキヲ帶ヲビ

粒ノ太クシテ能ク充實スルモノヲ取り之ヲ解

剖スレハ則チ卵殻ノ内已ニ小虫ノ形ヲナシ活

動スルモノヲ上等ノ卵種トスタトヒ假令卵粒大ニシ

櫛ハクマギ  
楊梅ヤクメイ  
柏ハカシ

尺ニシテ枝ヲ疎スニシ一坪ノ地ニ三本立位ヲヨ  
 シトス。山畑地或ハ開墾場へ苗木ヲ植付新規ニ  
 飼場ヲ仕立ルハ格段ノ下。在来植樹マキアル適宜ノ  
 地ヲ撰ヒ此蠶ヲ養ハント欲セハ必ス前年ヨリ  
 手入レイタシ。松杉其他食葉ニ妨ケアル雜木ヲ  
 刈リ除キ植樹ハ土際チギハヨリ伐リ留メ置キ。翌年ニ  
 至リ數本ノ新萌發生スルヲ二本立位ニ仕立。其  
 余ヲ伐リ除クキハ一年ノ内ニ三四尺ニ延ヒ立  
 チ三年目ニハ適宜ノ飼場ト成ヘシ。蠶ノ食葉ト  
 ナルベキモノハ 檉カシ櫛カシ檜ヒノキ楊梅ヤクメイ栢カキ椎栗シイ等數種アリ

種ヲ貯ルハ三四寸角ニ製シタル麻布ノ袋ニニ

三千粒宛入レシヤツヘキ牆壁ノ際キド土湿ノ氣アル処烟氣ノ

通フ処及ヒチヅミ鼠ノ往来スル処ヲ避ケ清潔ニシテ

寒涼ナル処へ釣リ晒シ置ヲ好トス。而シテ各所

氣候ノ異同ヲ論セス一ニ卯ノ皮ヲ薄クシテ生

瀑サシ置ク法アリ尤袋ノマ、清潔ノ水ニ浸大寒

明翌日新曆二月ノ朝六七時頃筐ニ入レ空氣漏

レザルヨウ目張ヲ致シ如何ニモ寒氣勝チニシ

テ濕氣ナキ処ヲ撰ヒ之ヲ貯へ置キ立春後六十

日目四月上ニ至リ封ヲヒラキ播種法ニ仍リテ

テ充實スル氏潤澤少ナク其色黯黒ナルモノ中  
 等トス。卵粒少ニシテ凹シボニ何トナクガサツキ或  
 ハ粒ノ大小不揃フソロヒニシテ其色モ亦齊トシカラサル  
 モノヲ下等トス。大底種取ノ節一籠メ雌雄シメウ一ツ  
 ガイヅ、入レ取リタル種ハ上品トナリ。數個イクツモヲ  
 コメ入レ或ハ蚊張等ニテ取リタル種子ハ下品  
 トナル。能ク鑑識カンシキスレハ一目リヤウゼン了然ハッキリ分ツ可キナレ  
 氏多年ノ試験シケンヲ積ムニアラスンハ往々誤テ粗  
 濫ノ種ヲ求ムルヲ免カレス。

貯種法

ノ樹木へ播キ付ル以テ度トス。其計筭ノ如キハ  
別表ニ就イテ見可シ。播キ付方ハ幅一寸長七八  
寸ニ切斷ナタル紙ノ中央へ蔽ビ粉ニ柿ノ渋ヲ  
マセタル糊ニテ。凡廿四五粒宛種ノ横ニナラヌ  
且ツ重トラメ様平ラカニ着ケ乾カシメ。植枝ノ  
成丈ケ日光照サ、ル所へ卵種ヲ日ニ照セハ其  
立ニ先タツトキハ終ニ毛虫ノ卷付ケ手輕ク  
飢死セシヲ恐ル、故ナリ。置バ虫自然ニ孚出シテ暖ナル方へ廻リ枝  
ヲ登リ芽立ノ葉ニ至リ之ヲ食フ可シ。既ニ孚卵  
シタル虫ヲ植樹ニ移スノ説モアレ氏。是ハ虫ノ



之ヲ立木飼ニスヘシ。又土圍ツチガコヒトテ甕ウヱ瓶バイノ類ニ入  
レ土中ニ埋置ツツメテクモヨシトス。都テ何レノ動物モ卵  
躰ノ時ハ空氣通セスト雖氏妨ケナシ只食葉新  
芽ノ出サルニ先チ孚卵セシトヲ恐ル、タメナ  
レハ各其地ノ寒暖ヲ量リ。大抵養樹ノ芽立十日  
斗リ以前ニ種箱ノ封ヲ開クト心得適宜ノ處  
置アラシトヲ要ス。

### 播種法

卵種一斗粒ニシテ凡一合ニ滿ッ養樹ノ疎密ニ  
ヨリ一様ナラスト雖モ。大抵一合ノ種ヲ一反歩

山蠶ノ害ヲナスモ、甚々多シ。青蛙、蝸、蛇、蟻、蜂、蜘蛛、鳥鼠ノ類皆妨害ヲナスモノナリ。蟻ヲ防ニハ樹根際ニ髮毛ヲ卷キ付。或ハ心太忡ノ煎シ汁ヲ濯ギ置ヲヨシトス。又鳥糞ヲ卷ケハ獨リ蟻ノ害ヲ防クノミナラス諸虫ヲモ防ク可シ。鳥類ヲ防クニハ、飼場ノ中央高キ処一畚小屋ヲ設置キ。其小屋ヨリ満面ノ飼場へ數條ノ繩ヲ引、互シ其繩ヲ幾多ノ鳴子ヲ鈎リヲキテ之ヲ守ル可シ。鳥類ヲ追トテ鉄炮螺具等ヲ用ユルハ響キ強クシテ蠶ニ害アリ。サレバ鳥ナトハ繭トナル後マテモ

損耗<sup>シ</sup>多ク又手數ヲ費シ不辨トス

### 飼養法

養樹ニ措付タル卵種發生否ヤ駸々トシテ枝上ニ登リ各新芽ニツキ之ヲ食ヒ雨ヲ凌<sup>シ</sup>キ風ニ堪ヘ自然ニ生長シ格別人ノ補助ヲカラス下雖勉メテ防害ニ注意セサレハ減歩多クシテ益<sup>エキ</sup>少シ此蠶ノ眠起<sup>ミ</sup>モ<sup>ク</sup>親蠶ニ異ナルヲナシ唯時日少シク後ルノミ大抵六十日間ニシテ四度ノ眠起<sup>ミ</sup>了リ繭ヲ作ルモノナリ。

### 防害法

テ静ニ之ヲ切取り十本斗リツ、葉ニテ束タバ子内  
 外ノ論ナク繩ヲ幾イクスシ條モ引ワ亘シ。右束子タル枝ヲ  
 掛置キ十日計リニシテ枝付ノ繭ヲハスシ。素蠶  
 ヲ養フ如キ籠ニハシロ筵ヲ敷キ其内ニナラヘ必ス養  
 一筵ヲ敷クニ限ルニ非ス持運ヒ便解棚ハ上ケヲ  
 ナル器ヲ以之ニ代用スルモ亦可也。柵ハ上ケヲ  
 ク可シ。但シ一所ニ積ツ重子或ハ手荒ニ取扱フ  
 トキハ繭中ノ虫ヲ疲タラシ種子取りニ宜シカラス。  
 成丈静カニ取扱ヘシ最初繭ヲ作り初メシ日ヨ  
 リ。凡二十日余ニシテ蛾カノ出ルモノ故ニ糸ニ操  
 ルハ蛾ノ出ヌ前ニ太陽ニ晒サスヘシ。凡二三日

一、蠶桑書

好シデ喰フモノナレバ。蠶巳ニ成長シタル上ハ  
時々威シ筒ヲ用ユルモ苦シカラス。蜂ヲ防クハ  
夜中飼場ノ傍ラニテ篝リヲ焚ケハ火中ニ飛入  
焼死ルモノナリ。

### 収繭法

孚卵コカヘリシ出ルヨリ十四五日ニシテ休ミ初メ都テ  
四度ノ休起了リ六十日目前後ニテ繭ヲ造リ始  
メ夫ヨリ三日又ハ四日目ニシテ繭ノ内面迄成  
就シ終レハ外面ニ白粉ヲ吹出ス右ヲ徴トシテ  
檢カキトル可シ。搔取法ハ繭ノ付メル枝ノマハ缺

ナク薄弱ニシテ黄色勝チ也。如此ハ種トリハ勿論  
糸ニ操リテモ宜シカラス。種ト為ス可キ繭ハ上  
品ノ内ニテ又一箇宛指先ニテ緩ク撮之耳ニ付  
ケ之ヲ試ムレハ繭中ノサナキ勢ヨク運動ス。是  
即チ健全ノ繭ニシテ種ニ貯フ可キ也。又上下回  
轉シ或ハ指一テ撮ハトモ生氣乏シク勢イ無キ  
ハ必ス粗<sup>シ</sup>也。其善惡懸隔アルハ風土ノ變且  
元種ノ粗ニ由ル故ナリ。

蠶蛾辨

山蠶ノ蛾ハ山野ヲ飛走スルモノニシテ其翼頗

間炎日ニ出シ太陽西ニ没シテ繭ヘシトリヲ受  
ル後之ヲ蔵ムルヲ好トス山蠶ハ強健ナルヲ棄  
蠶ノ比ニ非スシテ仮令日ニ于スヒ赫々タル炎  
熱ニアラスシハ蛾ノ出ルヲ防ク能ハス故ニ若  
シ雨天ノトキハホイロニカケテ斃ス可シ繭ヘ  
針ヲサスハ糸ヲ切ルノ妨アリ甚々善カラス

### 鑑繭法

繭ヲマユ鑑定スルカミトハ枝ニ付タル繭ヲカ搔キ取り一  
個宛之ヲ見ルニ如何ニモ太クシテ堅クシマリ  
綠色トハ上品トス下品ノ繭ハ小ニシテ締シマリ

活動ス。如此サナギハ勢ヒヨキニ似タレドモ蛾ト  
ナルモノニアラス。其蛆ハサナキノ腐肉ヲ喰テ  
成長シ秋ヨリ冬ヲ凌キ翌春ニ至リ漸々生長シ。  
四五月迄ニサナキノ肉ヲ食盡シテ其儘繭中ニ  
斃ル。又蛆ノ腐肉ヨリ蜂ヲ生シ繭ヲ喰出飛去ル  
モノアリ。或ハ繭中ノサナギ夏ノ間死シテ腐敗  
シ小蛆ニ三十足トナルモノアリ。蛆ノ種類ニ異  
同アリト雖モ都テ蠶蛾ノ用ヲナサス知ラサル  
可カラス

### 製種法



ル健ナル故ニ蛾出ルヤ否ヤ直ニ種取籠ノ内へ  
入ル可シ。蛾ノ出ルハ夜中ヨリ朝六時頃マテニ  
限ルト雖モ多ク夜中ニ出ルモノト知ルヘシ

蜂蛆糝

蛆ハ蠶ノ腐肉ヨリ生スルモノニシテ一繭毎ニ  
一蛆ヲ生ルナリ。已ニ繭ニ成リテヨリ七八日ニ  
シテ蛹トナリ。二十日余リヲ經テ蛾トナリ。繭中  
ヲ脱出スルハ常性ナレド蛆ニ化スルモノハ蛹  
ノ軀ニ腐敗ノ兆ヲ顯シ一点ノ斑痕アリ其サナ  
ギヲ解剖スレハ腹ノ中心ニ一個ノ蛆アリ能ク

置トキハ兩三日ノ内ニ籠ノ外面ミタケ身竹ノ分へ卵  
 種ヲ産ミ付ルモクヲ一番トリトス其夜ニ至リ  
 雄蝶ヲテツハ放チ去リ雌蝶メテツハ他ノ大籠へ幾足ナリト  
 モ一緒ニ入レヲキ産ミ殘セシ卵ヲ再ヒ産付サ  
 スルモノヲ二番取トシテ別ニ蔵メ置ク可シ二  
 番種ハ一番種ヨリ遙カニ劣ルナリ産付タル種  
 ハ三十日計リ籠ノマヽニ取ヲキ其上ニテ少キ  
 竹籠タケハコニテ静カシヅクニコサゲ落スベシ誤テ早クコサ  
 ケ取トキハ卵ヲ損傷ノシヤウシテ孚卵セス最緊要ノコ  
 ナリ又卵種ヲ日ニ照ラセハ種子枯死ツツシテ孚卵

製種ノ法ハ生繭ノ取扱方別シテ大切ニ注意セ

サレハ精良ノ種ハ得難シ。先ツ収繭法ニヨリ時

日差タガハザルヨウ取収メタル繭ノ健全ナルモノ

ヲ擇エラヒ。箆ニ延ノヲシキ一個宛竝ニ一揃ヘ上ケ置ク

可ク。蝶ノ繭中ヲ脱出スルハ夜中ヨリ翌朝八九

時頃迄ニ限ルト心得ヘ。其脱出シタル蝶ヲ直ニ

一雌雄宛種取箆ヘ入ルヘシ。若シ一箆ノ内ハ數

足ノ蛾ヲ入ル、トキハ互ニ驚動オドロクシテ身體ヲ疲

ラシメ、卵種ヲ産ムヲ得ス。故ニ種取箆ハ數多造

リ置キ。箆ツイテ見ルハ國ニ必ス箆ニ一雌雄宛入レ

山蠶養法卷之下

濱野章吉閱正

佐伯義門編

大塚金庫校

製絲法

製絲ノ法ハ清淨ノ水ヲ鍋たへ入レ沸ワキ上リタルト  
キ。繭三十個計リヲ投入テ。繭ノ中マテ能和ラセ  
タル適度ヲ見合セ一個ツ、取リアゲ繭ノ尻ヨ  
リ外面ノ粗絲ヲトリ除キ。絲口ノ一條ニ十リタ  
ルヲ別ニ取揚ヲキ。一鍋ノ繭残ラス右ノ如クニ

セズ種取籠ニ入ルハニ及テハ蜂ハチ蟻アリ鼠ネズミ其他諸虫  
ノ害アリ勉メテ之ヲ防ク可シ。

山蠶養法卷之上

終

ト漬ケ置キ和ラカニナルヲ度トシ清水ニテ能  
々洗イ挽延ス可シ又是ヲ絲ニ紡キ紬ナドノ織  
モノニ製ス可シ

### 手飼法

手飼テガヒニ内飼ウナガヒ池飼イケ溝飼ミヅ箕飼オストテ四様アリ。内飼ト  
ハ宅内ニ桶ツケカ甕カメナド居スヘ置キ之ニ楨ノ枝ヲ立  
テ養フナリ。池飼ハ池ノ面ヘ木竹ヲ以テ床ヲ組  
之其上ヘ薄キ筵ヲシキ。其筵ノ上ヨリ楨ノ枝ヲ  
サシ込枝ノ本水中ニ届ク様ニ立置ナリ。溝飼ハ  
溝ノ上ヘ池飼同様ノ仕方ニテ養フナリ。箕飼ト

稗ヒエ 稗ヒエ 異

シテ粗糸ヲ取除キタル後チ。又四ツ五ツ宛鍋ノ  
中へ入テ糸ヲ操ル可シ。操糸ノ法ハ素蠶ニ同シ  
勿論鍋ノ湯ハ度毎ニ替フ可シ。新繭ノ糸ハ操易  
ケレ氏性惡シキ繭及ヒ古繭ハ糸ニ操ニ難シ。蕎  
麥稗ノ灰汁又ハ木灰ノ汁ヲ清水ノ中へ少シサシ  
交ヘテ操ル可シ。山蠶ノ糸目方百目ニテ素蠶糸  
百六十目ト比較シ。長サ太サトモ同様六割ノ差  
アリ代價モ之ニ準スルノ利用アリト知ルベシ。

製綿法

製綿ノ法ハ蝶ノ出殻デカラヲ蕎麥稗ノ灰汁ニ七日ホ

移ルナリ。移リ残リタル分ハ蠶ノ付タル小枝共  
 鋏ニテ切取り新キ枝上ニ乗セ置可シ。

収獲地坪表

一坪ノ地ニ楨三本トシ一本ニ繭十個トリノ  
 概算ナリ楨樹ノ丈ハ六七尺位ノ少木トス

一坪  
 一畝  
 一反  
 一町  
 十町  
 百町  
 一里方

繭収獲數

繭三十個  
 九百個  
 九千個  
 九万个  
 九十万個  
 九百万個  
 一億千六百六十四万个

生繭代價

六錢  
 一圓八錢  
 十八圓  
 百八十圓  
 千八百圓  
 二万八千圓  
 二十三万三千二百八十圓

生繭秤量

七十五匁  
 二貫二百五十目  
 二十二貫五百目  
 二百二十貫五百目  
 二千二百五十貫目  
 二万五千二百九十貫目  
 六百貫目



ハ内飼ノ如クニシテ之ヲ宅外ニ置キ物害ヲ防  
クタメ四方ヲ簣<sup>ス</sup>ニテ圍<sup>カ</sup>ヒ置ナリ圖ニ就テ見ル  
ヘシ。叔飼場ハ種々ニ異ナレ氏種付方ハ大概同  
様ナリ。先ツ卵種ヲ漆<sup>ウ</sup>ニテ塗<sup>ヌ</sup>タル盆<sup>ホ</sup>ニ薄ク擴<sup>ヒ</sup>ケ  
置キ。其期ニ至リ孚卵スレハ新芽<sup>メ</sup>ヲ摘<sup>ツ</sup>之又ハ新  
芽發生シタル枝ヲ此上ニ掩<sup>フ</sup>イ置ケハ虫自ラ這<sup>ハ</sup>  
移ル也。之ヲ飼場ニ挿<sup>サ</sup>植枝ノ上ヘ掩<sup>フ</sup>イ置ケハ亦  
自然ニ這移ル可シ。而後日々古キ枝ヲ拔<sup>キ</sup>新シ  
キ枝ト挿換ヘシ。其時モ蠶ノ付タル古キ枝ヲ挿  
換タル新キ枝ニ立掛ケ置トキハ暫時ノ間ニ這

其代價廿三万三千二百八十圓トナル。山野ノ遺  
利巨大ナルト實ニ意外ニ出ツルヲ知ルハシ。一  
里方ハ廣キカ如シト雖氏僻地山村ニ於テハ一  
區内ヲ出スシテ一里方ノ植山ヲ得ルハ難シト  
セス。凡植樹ハ切取後十年以上ヲ經ルニアラサ  
レハ再ヒ薪木トナスニ堪ヘス。其薪木ニ堪ルモ  
ノモ一反歩ノ代價僅カニ四五圓ニ過キス。若シ  
之ヲ轉用シテ山繭ノ養木ニ備ムレハ三年目ニ  
シテ前文ノ利益ヲ見ルヘシ。此利益ヲ知ラスシ  
テ妄リニ薪炭ニ伐菜キリアラスハ惜ムハキノ至リニア

<p>生糸製量</p> <p>三個節ヨリ 一分ノ糸ヲトル</p>	<p>生糸代價</p> <p>十五錢 生糸見方百 目金五百ノ積</p>	<p>繭出穀價</p> <p>三個ノ錢 一個殻ニ厘 トス</p>	<p>製糸人歩</p> <p>一人ノ之 三分一</p>	<p>同賃錢</p> <p>二錢 但シ入歩 我トス</p>
<p>九十目</p>	<p>四四五十錢</p>	<p>九十錢</p>	<p>九人</p>	<p>五十四錢</p>
<p>九百目</p>	<p>四十五圓</p>	<p>九圓</p>	<p>九十九人</p>	<p>五十四錢</p>
<p>九貫目</p>	<p>四百五十圓</p>	<p>九十圓</p>	<p>九百人</p>	<p>五十四圓</p>
<p>九十貫目</p>	<p>四千五百圓</p>	<p>九百圓</p>	<p>九千人</p>	<p>五百四十圓</p>
<p>九百貫目</p>	<p>四万五千圓</p>	<p>九千圓</p>	<p>九万人</p>	<p>五千四百圓</p>
<p>一万千六百 六十貫目</p>	<p>四十五方圓</p>	<p>九万圓</p>	<p>百十六万 六千四百人</p>	<p>六万九千九 百八十四圓</p>

右表ノ如ク年々一反ノ地上ヨリ収拾スルトコ  
ロノ繭價拾八圓ヨリ積算シテ一里方ニ至レバ

右表面ノ如ク一畝ノ種繭ハ雌雄二十個ヲ要ス。  
其産出スル卵子ハ一千粒ニシテ秤量ニ及五分  
アリ。升量ハ一合ノ十分一即チ一勺ナリ自余推  
シテ知ルヘシ。凡ソ雌蛾一匹ニテ百個ノ卵種ヲ  
産出スルユヘ雌雄ニカ、ワラス平均繭ゴトニ  
五十倍トナル。サレトモ陰寒ノ地方ニ生育スル  
繭ハ十ノ七八蛆トナリ蛾トナルモノ僅カ三四  
分ニ過ス。故ニ種繭ハ勉メテ風土適宜ノ地ヲ撰  
ンテ飼養セスンハ違蠶多クシテ精品ノ卵子ヲ  
得難シ。表ニ掲ルモノハ健全ノ繭ヨリ取り収ム

# 卵種収獲表

前表坪數、植樹ヲ以明年幾町歩ノ蚕ヲ飼立ントスル種取繭幾  
個ヲ以テ幾粒ノ卵子ヲ取置ク目的ヲ立ル概算

一坪分 一畝分 一反分 一町分 十町分 百町分 一里方

種取繭數

一個ノ

二十個 二百個 二千個 二万個 二十万個

二百五十九  
万二千個

産出卵種 三十粒 千粒 一万粒 十万粒 百万粒 千万粒

一億二十九  
百六十万粒

卵種秤量 八厘三毛余 二匁五分 二十五匁 二百五十匁 二貫五百匁 二十五貫目

三百二十  
四貫目

卵種升數

合ノ三  
百分

一匁 一合 一升 一斗 一石

十二石九  
斗六升

紀元二千五百三十三年第十月

山  
夫  
蟲  
飼  
方  
之  
圖

松川  
半山  
直  
名  
画



山  
夫  
蟲  
飼  
方  
之  
圖

画

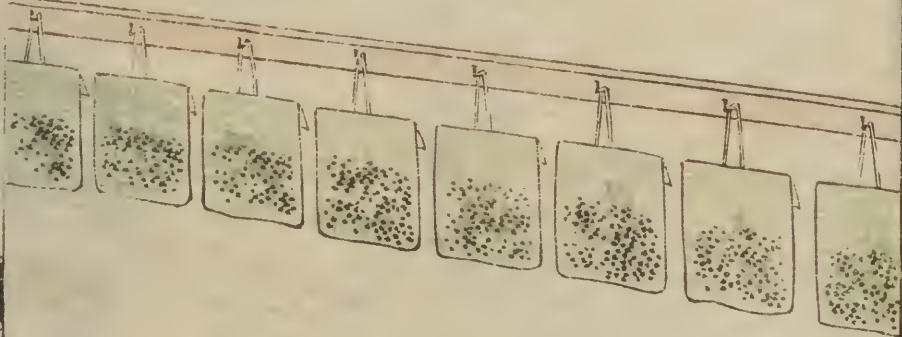
此ノ算計ナリ。

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

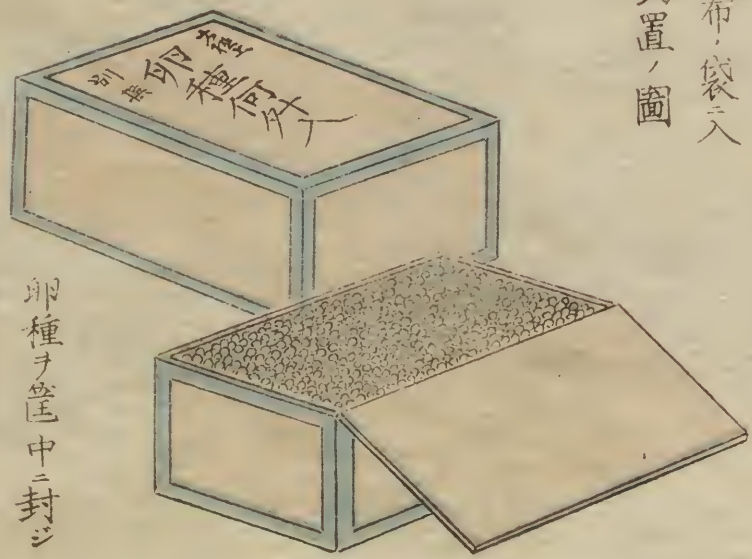
山越養法卷之下

終

此ノ算計ナリ。



卵種ヲ麻布・袋ニ入  
嚴寒ニ迫リ置ノ圖



卵種ヲ筐中ニ封ジ  
貯置ノ圖



山蚕飼場之圖



紙へ付タル卵種ヲ  
木へ付ル圖



卵種ヲ盆へ擴  
紙へ付ル圖



卵種ヲ  
紙へ付  
タル圖

孚卵ノ幼虫ヲ

枝へ移スノ圖



山  
洗  
盆  
養  
法

四

飼養中之圃



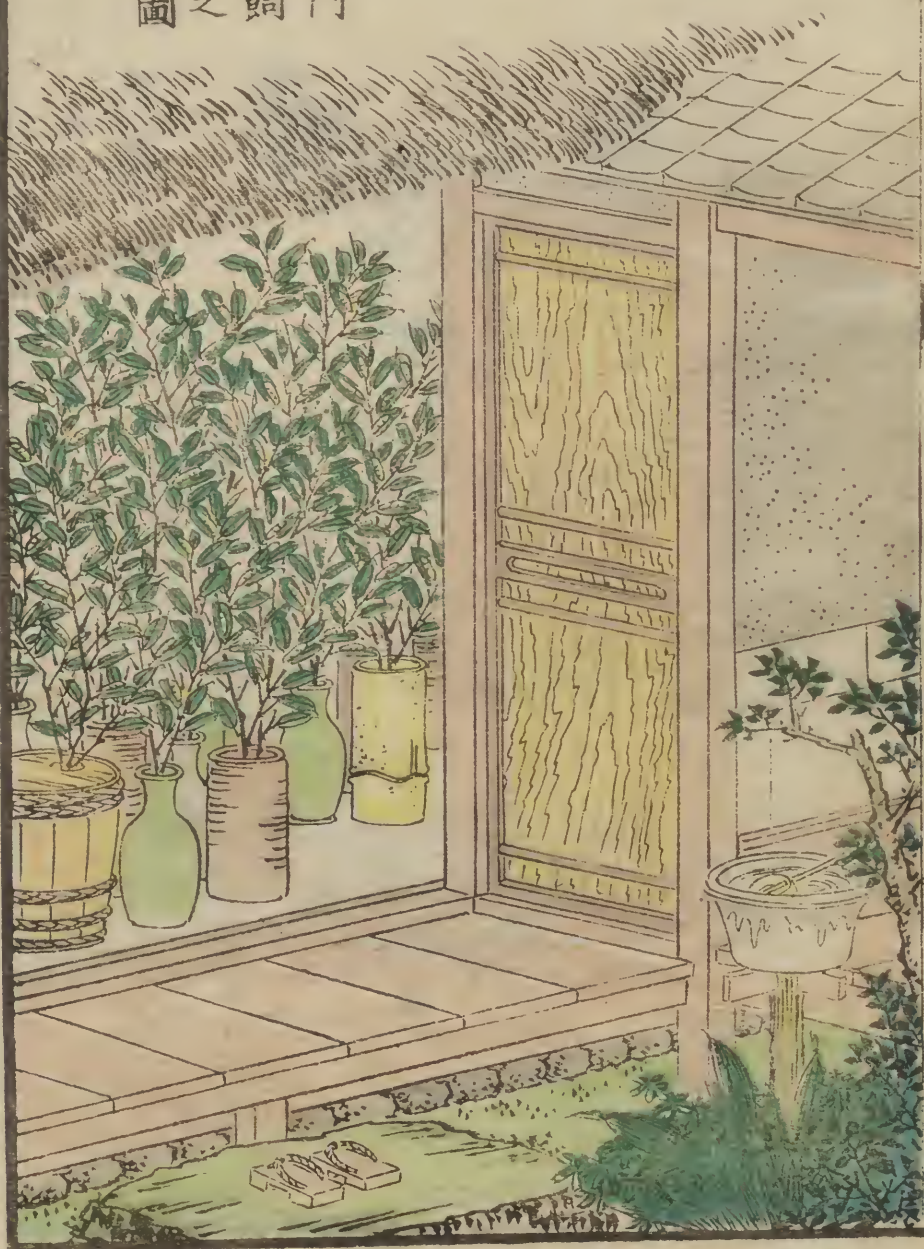
乙未年三月

西三

池飼之圖



內飼之圖



山  
卷  
第  
一  
回

四  
口

簣飼之圖





溝飼之圖



熟蔕ヲ  
鉄ニテ切  
採ノ圖



青虫之圖



山  
卷  
第  
一  
册

四  
二

棚ニ載セタル繭ヨリ  
蛾ヲ出ス圖

枝付ノ繭ヲ一ツ  
併ヘルノ処



繭之枝付  
ヲ束ニシ  
テ繩ニ掛  
ル園

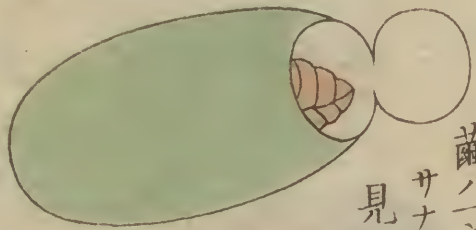


繭ヨリ  
蝶出ル  
之圖

蛆<sup>ウジ</sup>蜂  
ト  
化スル  
処



蛆<sup>ウジ</sup>



繭ノ一方ヲ切リ  
サナギヲ  
見ル圖

サナギ  
ヲ切  
リ  
ウジヲ  
見ル  
処



サナギ

蝶真形圖

雄



雌



卵子ヲ竹

籠

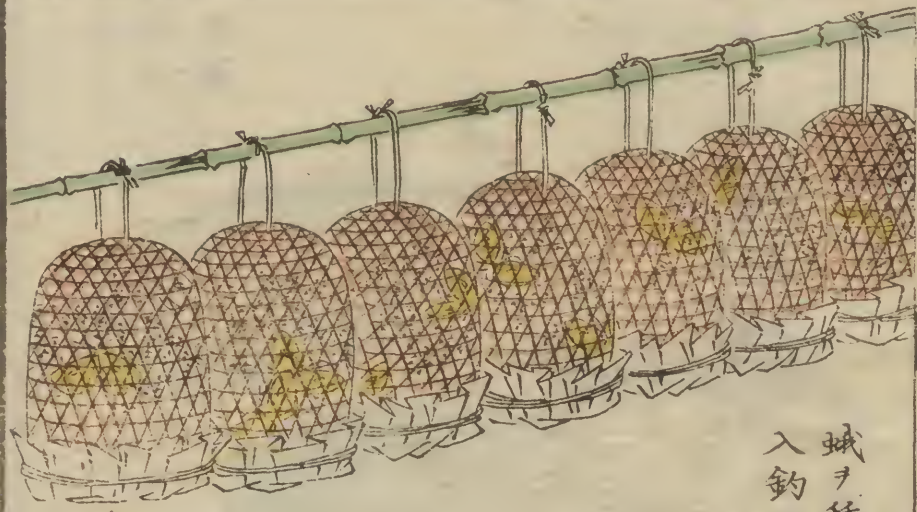
ニテ取ル之圖



山生急養六

画十



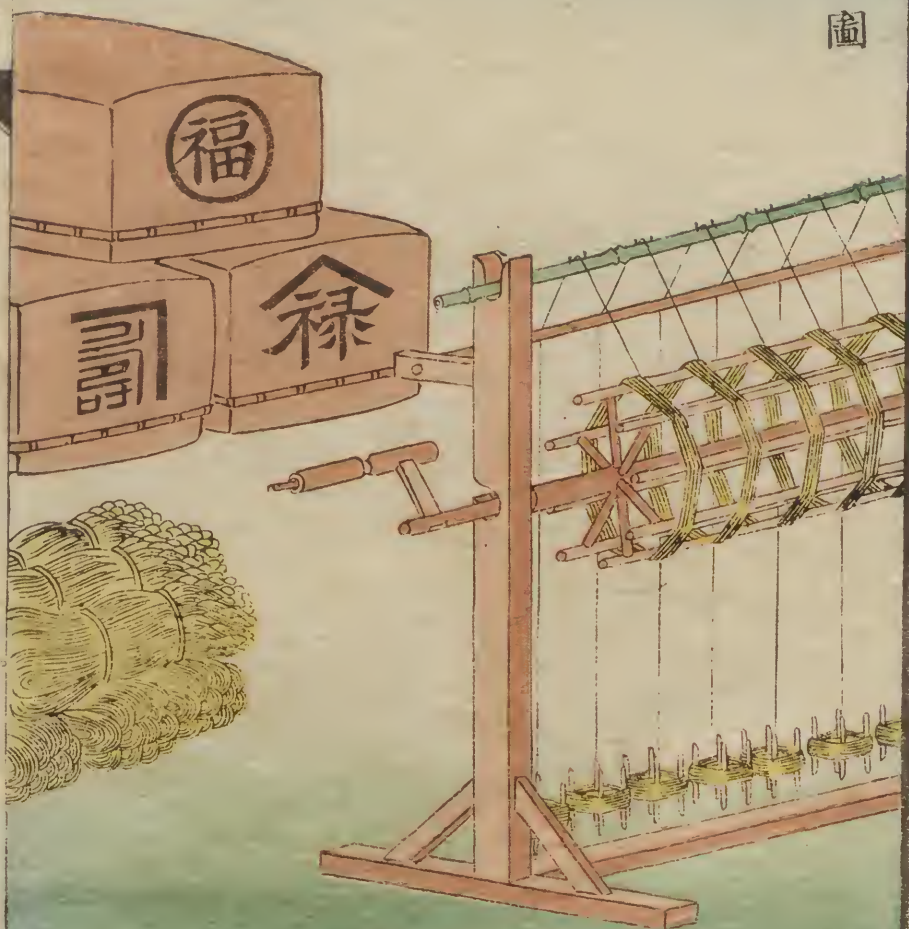


蛾ヲ種取籠ニ  
入釣置之圖

種取籠  
之圖  
寸方  
豎八寸  
經七寸



絲仕上之圖



山  
蠶  
養  
法

百  
一  
卷



絲操  
之圖

備後瀨野章吉先生著

養蠶拾遺篇 同附録

全二冊

此書ハ日本の養蠶生糸ハ天授乃名産山一々  
他國小比類なき品物トは本を推し末を究め  
我國の人として地上小桑を植へ蠶を養ふを  
殆ど地上に湧出る金銀を拾ひ取も同様の理  
を明らふし其立論詳委間然をべきなり従来  
活計の策小迷ふ者も之を一讀をせば頗小方  
向を定め授産の便を得可き善書なれば毎戸  
必だ一部裁蔵し時々刻々之を講究をれを仮

山  
外  
錄  
卷  
之  
一

五  
十  
一  
終

# 弘通

東京日本橋通壹丁目

比留茂兵衛

同 三丁目

長野龜七

西京三條通東洞院

村上勘兵衛

同 二條通柳馬場

若林喜助

尾州名古屋本町

栗田東平

備中笠岡

細謹社

同

森田佐平

同 倉敷

林源十郎

大阪心齋橋通安堂寺町

田中太右衛門

同 博勞町

長尾彌兵衛

同 順慶町

此村庄助

# 書肆

ひ養蠶小志おき者と雖も我國土の益々貴を  
知一附録小至てハ第一桑園乃反別小應ト  
養素れ分量生繭の取額生糸の重量及雇工手  
数器械諸具等に消費を多し金貨日數利益の  
計算に至る迄都て蠶事小關を事ハ漏さば  
残さば悉く表と造り一目瞭然ならしめ傍ら  
金銀銅鉄米綿蠶藍茶紙等諸産物の量目價格  
を以て生糸と比例し人々をして愈蠶業の確  
乎大利益と名事を自得せしむる書にして凡  
養蠶小志ある者必讀せざる可あらざる也

カキマコ